



国際会長 (IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)

“Mission with Faith”

「信念のあるミッション」

アジア地域会長 (AP) Edward K.W. Ong (シンガポール)

“Through Love, Serve”

「愛をもって奉仕をしよう」

東日本区理事 (RD) 渡辺 隆 (甲府)

「原点に立って、未来へステップ」

“Stand at the origin and take a step for the future”

湘南・沖縄部部長 (DG) 今城 高之 (横浜つづきワイズメン&ウイメンズ)

「一人ひとりが愛と平和の種をまこう」

横浜クラブ会長 (CP) 金子 功

「クラブの伝統に誇りを、明日に自信を」

“Pride and confidence for the future”

会長 金子 功
副会長 高杉 治興
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 天野 皓司

監事 舟田 正夫
ブリテン 高田 一彦
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

金子 功

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。

(イザヤ書2章4節)

今月のひとこと

<ワイズメンズクラブって何ですか>

伊藤 誠彦



「ワイズメンズクラブって何ですか」と聞かれることがある。その時には「YMCAの活動を支援するボランティアグループです」と応えることにしている。

「なぜYMCAですか、具体的にはどんなことをしているのですか」と聞かれる。支援に

は経済的支援とお手伝いがあるが、お手伝いとしては、ウェルカムフェスタ蚤の市の売り子、チャリティーラン当日のお手伝い、最近では日本語スピーチコンテスト・・・思いつくままにクラブとして行っている活動の一端を紹介する。

一方で、自分はワイズの会員になって十年以上になり、ワイズの活動にはそれなりの時間も費やしているが、いまだに胸を張ってYMCAの活動を支援していると言うほどのことをした充実感に乏しい。

毎月第二木曜日の定例会、主としてクラブの運営について話し合う第四木曜日の第二例会、・・・何故だろうと考える。どうもクラブの内向きの活動に費やす時間と労力が大きいことが一因のようだ。

打開策を求めて「ワイズ必携」(2006)と「ワイズ読本」(2008)に、再度、目を通して見た。

二つの指摘が気を引いた。① 例会充実の大切さ。② 団体奉仕ではなく個人奉仕を重視すること。

例会は会員の質の向上に資するものであり、会員の親睦の場である。そこから生まれたエネルギーがYMCA奉仕、ひいては社会奉仕に向けられる。背景にはYMCAは社会のニーズを掴んでいるという信頼がある。

奉仕に当たっての個人重視は、正直なところ、意外であった。しかし、十分な合意を抜きにして行うグループ奉仕活動は失敗し、人間関係まで悪くすることがある。要は自分が周囲の人がまわっておけないような熱意と誠意が感じられる「人」になることであり、団体奉仕の絶対性を信じてはいけな、と言う。

ここは素直に先人の教えに従って、充実した例会プログラムの立案に、又、自発的・自律的なボランティア活動のありかたについて、考えてみたいと思う。

<2015年8月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
18名 (功労 会員1 名を 含む)	メン 14名 メネット 3名 コメット 1名 ビジター 8名 ゲスト 13名 合計 39名	82 % (メーキャップ 名を含む)	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 2,443g 現金 0円

<9月の行事予定>

ユース

日	曜	時間	行事内容	場所
1	火	19:00	第70回Y-Y' 協議会	中央Y
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
23	水	10:00	会員スポーツ大会	フェリス
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
26	土	16:00	湘南・沖縄部部会	ワークピア

<8月納涼例会報告>

天野 皓司

日時：8月27日（木） 18:00～20:30

場所：驛の食卓

出席者：青木、天野、伊藤久・妹、今村、今村コメット、遠藤、大江、押川久・妹、金子、神村久・妹、齋藤、高田、田口、成瀬、古田

ビジター：太田勝人（世田谷）、伊藤幾夫（東京コスモス）、服部節子（東京たんぼぼ）、辻剛（横浜つづき）
加藤利榮久・妹、佐藤康子、吉原和子（以上横浜とつか）
ゲスト：大高治、高橋悌郎、茂木雄、古賀健一郎、その他に

コロヘ今村の皆様3名、ポエポエフラの皆様4名、マナ保育園の皆様2名、

8月例会はここ数年定番となった「驛の食卓」にて、納涼例会として盛大に行なわれた。

遠藤ワイズの司会により、金子会長の開会点鐘・挨拶の後、ワイズソング・ワイズの信条、古田ワイズの今月の聖句と食前感謝と進み、神村ワイズの乾杯の発声で納涼会がスタートした。県下の食材を使った料理と地ビールを楽しみながら、



ハワイアン演奏とフラダンス

自己紹介もそれぞれ、今村ワイズ率いるコロヘ今村バンドに高田ワイズも加わり、ハワイアン演奏が始まった。昔懐かしい軽快な演奏に加えて、

ポエポエフラ皆さんによる妖艶なフラダンスが入って、納涼会は最高潮に達した。かぶりつきで見るフラの皆さんの艶めかしい腰と手の動きもさることながら、魅力的な笑みを



納涼会参加者

絶やさないパフォーマンスに会場は大いに盛り上がった。また、コロヘ今村バンドの井田夫人による透き通るようなソロとご主人によるフラダンスは、お二人の誠実な人柄も滲み出て素晴らしいものであった。そして何よりも、20年間ハワイのウクレレフェスティバルに出場続けている今村ワイズのお年を感じさせないウクレレ演奏は、まさに圧巻であった。

頃合いを見計らって、「憧れのハワイ航路」「ここに幸あり」の全員の合唱があったのも、参加者のお年を考えた心憎い演出であった。次から次へと繰り出される味の異なるビールに酔い、入り乱れての楽しい納涼会となった。最後に「アロハオエ」をみんなで歌って2時間半の熱狂に終止符を打った。今年はビジター、ゲスト含めて39名もの皆さんの参加があり、過ぎゆく夏を堪能した一夜であった。

第70回Y-Y's 協議会報告

金子 功

第70回Y-Y's 協議会が9月1日（火）午後7:00より横浜中央YMCA 501号室で開かれた。今回は厚木クラブが担当。開会礼拝は吉永貴弘担当主事の司会で行われた。田口総主事の挨拶は欠席により省略。湘南・沖縄部今城高之部長は今年度の部長方針を簡単に述べ、第1回部評議会も済ませて新事業年度への順調な滑り出しを述べた。

下記の協議・報告事項は堀田哲郎厚木クラブ会長の司会で進められた。

1. BAPY基金の募金キャンペーンについて
BAPY基金委員会担当鴨下純久スタッフより目標額550万円募金運動のちらしが配られ、趣旨が説明された。募金運動の一環としてYMCAゴルフ大会の計画も公表されワイズの積極的な参加が求められた。基金の運用方法については活発な質疑が交わされた。
2. 第18回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランについて
大会実行委員長が今城湘南・沖縄部長であることを確認し、参加チームの確保を含めワイズの協力を確認した。報告事項として、ワイズ側からは第1回部評議会、第19回湘南沖縄部会について、YMCA側からは第22回AIDS文化フォーラム、横浜YMCA常議員・運営委員・常置委員のための委員研修会、会員スポーツ大会等について報告された。

各クラブ報告では、横浜クラブは①8/27の納涼会、②活発な会員増強活動、③ホームページ再構築の3点を報告した。当日の出席者：ワイズ側；14名、YMCA側6名；横浜クラブ出席者：金子

「第26回アジア地域大会報告」

高田 一彦

7月31日から8月2日の3日間、内外からの914名のワイズメンと48名のユースが集い、第26回のアジア地域大会が京都のウエスティン都ホテル京都において“Start Future Now”「未来を始めよう、今すぐに」のテーマの下に開催されました。開会式は、田中博之直前東日本区理事の歯切れの良い司会の下に開催され進行し、クリスチャンバナー、アジア地域フラッグ、聖書・ギャベル・キャンドル・各地域

フラッグ入場後、岡野直前アジア会長の開会宣言により始まり、島田YMCA同盟総主事の聖書朗読、祈祷が続きました。

先ずは、新年度の国際会長 (Wichian)、アジア会長 (David Wu) の就任式が藤井元国際会長の司式により執り行われ、新旧役員交代式が壇上で行われ、角川京都市長、山田アジア太平洋YMCA同盟総主事、アイザック直前国際会長からの祝辞が述べられ、開会式の閉めとなりました。

休憩の後の基調講演では、大会テーマにふさわしい「宇宙からの贈り物」と題してスペースシャトル搭乗科学技術者の毛利衛氏の映像を交えた語りかけで、「現在私達人類が存在しているのは長い歴史の中で1万1千年前にたまたま気候が安定して生命が進化して現在があるのに、私達自ら環境を破壊し、温暖化現象を引き起こしている。温暖化現象を防ぐ為には世界の人々が知恵を出し合って宇宙の研究や様々な研究を通して一つに繋がらなければ、地球を子孫に残すことは出来ない」と言う、示唆に富んだ講演で万雷の拍手を浴びた。



講演中の毛利氏

一日目の夜は、IPAPナイトとなり、岡野直前地域会長のスピーチ、次期会長の乾杯で始まり、アトラクションも京都ならではの舞妓さん、芸子さんの伝統舞踊で盛り上がり、食事の間にも、舞子、芸子さんが各テーブルを回って歓談に花を添えてくれました。

2日目は、午前中に谷本直前アジア地域書記の報告とYMCAサービス、ユース支援、Extension、CSとNDERFの4つの分科会が開催され有意義な一時が持たれました。



横浜からの金子、齋藤、高田

午後、エクスカッションで宇治平等院、嵐山、比叡山延暦寺、「能」観劇等々の7つのコースが用意され、猛暑の京都を楽しみました。因みに私は、延暦寺コースに参加し、貴重な20分間の坐禅体験をしました。

その夜の晩餐会は、エドワード地域会長主催のAPナイトとなり、シャオ次期アジア会長の乾杯に始まり、ユースのパフォーマンス、各地域のお国自慢が続き、ダンスタイムで会場が大いに盛り上がりました。

最終日は、国際やユースの報告会が行われた後、IBCとDBCの締結式が行われ、次回の第27回アジア大会のアピールが台湾地域により行われ、閉会式に移りました。

今回もこのような国際的な大会に出席し、西日本だけでなく世界のワイズメンに再会でき、交流を深める事が出来たことは改めてワイズの素晴らしさを再認識する一時でした。横浜からの参加者は、金子、齋藤、高田の3名。

『最近の学生気質』



青木 一弘

常々、学校の業務に取り組んでいる際によく考えることがあります。何が「最近の学生気質」なのか?ということです。自分が

学生であったのは、遠い昔の話です。自分達の時も同じだったはずなのに、それを棚上げて「最近の学生は…」などと言っているのではないかとそんな気持ちになることが少なくありません。私達に比べて、社会経験の乏しい若者は、大人から見ればいつの時代も常に未成熟な存在であるのですが、ついつい苦言の1つも呈したくなります。

その一番の要因と言えるのが「ゆとり教育」の影響ではないかと思います。ゆとり教育の何が最大の問題点なのかを考えると、「ゆとり」を学生に与えるという発想そのものに思えてなりません。理想を言えば確かに、誰もが他人から何も言われなくても、自主的にどんどん勉強するのが一番かも知れません。しかし、そのような生き方を子供達に求めるのは、少し時期尚早のようにも思います。今まで日曜日しか休めなかったのに突然、「土曜日を休みにするから、好きなことをして良い」と言われたら、大抵の子供達は遊ぶか寝るかのどちらかに走るはずでしょう。大人でも会社から同じ事を言われたら、「寝る」「遊ぶ」「ゆっくりする」のいずれかを選ぶ人が大半ではないでしょうか?そして、会社の仕事について研究する人は、一体どれ位いるのでしょうか?(すべての方が、そうではありませんが…)

格差社会の到来が心配される昨今、子供達の生きる力と確かな学力の形成に資するために私たちは何をしたら良いのでしょうか?日々の学生との関わりの中で、ゆとり教育問題を中心に改めて考えてみると、今の学生気質の背景には、その時代特有の育成環境を考える必要もあります。また一方で、昔から通底している社会構造のようなものも色濃く影響しているかとも思います。その大きな流れに起因している学生気質は、私たち大人

世代も経てきた「いつか来た道」だと言えるでしょう。デメリットばかりではありませんが、長い年月をかけて築かれてきたこの教育方法の解決にメスを入れることは容易なことではないことも事実です。これらの現状を少しでも回復させ、未来を生きていく子ども達の為に寄り添っていきたいと思う今日この頃です。



学生達との合宿

「近況」

松島 美一



人生の一大事を経験しました。

毎年4月の人間ドック受診は現役時代からの恒例でした。メタボ予備軍で高血圧なので飲酒、食事の量と内容に注意との指摘に、「良く分かりました。気をつけます。」と受け流すのも恒例でした。ところが今年は胃がんの疑いありとの突然の電話を受け、精密内視鏡検査を受ける羽目になりました。その結果小さな病変が見つかり、内視鏡手術で取った方がよいとの診断でした。まさに青天の霹靂でした。自覚症状のないまま、6月に内視鏡手術を受け、6日間入院しました。退院後の外来で手術摘出部位の組織検査で粘膜下層のリンパ管にがん細胞が検出され、転移の可能性があると診断、第2回目の「青天の霹靂」でした。80歳を過ぎましたが、糖尿病その他の重大な病気がなく、比較的健康でしたので、

胃のより広い部分とリンパ節を切除して安心することを勧められました。消化管外科の医師と相談の上、7月14日に腹腔鏡下幽門側胃切除術を受けました。手術は腹腔鏡下で大きな開腹をせずにすみました。2回目の手術後の痛み、辛さは6月のとは比べ物になりませんでした。ともかくも7月25日に退院となりましたが、入院中に夢見たシャバは焦熱地獄でした。

2回目の手術の切除部位からはがん細胞は検出されず、再発の心配はないとの診断で一安心でした。しかし、この夏は自宅に閉門蟄居、隠忍自重、禁酒、謹慎の日々で、腹周り、手足ともにスリムになり、メタボ予備軍は昔話となりました。目下、秋の活動再開に向けひたすら静養に務めています。

老年と言われる歳にはいろいろなことが起こります。ワイズの皆さまご自愛ください。

第二例会報告

古田 和彦

日時：8月27日(木) 16:55~17:20

場所：驛の食卓

出席者：青木、天野、伊藤、金子、高田、古田、大高(ゲスト) (以上7名)

協議・確認・検討事項

- 1) 行事予定
 - 9/1 Y-Ys協議会(金子会長出席)
 - 9/26 湘南・沖縄部会
- 2) 十勝クラブワイズポテトの申し込み締め切りは9/10
- 3) 仙台育英決勝進出記念「YES基金」寄附の呼び掛けに対しては個人で対応する。
- 4) クラブロッカーを5階事務所に移動する。9月第2例会を午後4時からとし整理する。
- 5) クラブのホームページを再開した。
- 6) 伊東クラブ40周年への対応は高田ワイズが検討する。
- 7) 新しいプログラムとして、(仮称)「横浜グルメ&プログラムナードへのお誘い」を検討していく。
- 8) 卓話予定
 - 9月：横浜YMCA日本語科留学生(ベトナム)



担当主事 青木 一弘

●ミャンマー洪水支援緊急支援募金のお願い

8月に入り、ミャンマー、インド、バングラデシュ、パキスタンなどで発生した豪雨による洪水で多くの方が犠牲となり、被災をされました。ミャンマーでは、8月10日現在、全国で死者100人以上、被災者約100万人、また水田48万6千ヘクタール以上が現在水没しており、17万4千ヘクタール以上が壊滅状態という報道があります。(AFP通信)

横浜YMCAでは、毎年ミャンマー・パテインYMCAと協働し、医療・公衆衛生・交流活動を行っていますが、現地ではサイクロンで被災した子どもたちへの教育支援のために設立したチャイルドラーニングセンターの活動を休止し、そ

こを拠点として、被災した方々への支援活動を行っています。(このセンターは横浜YMCA国際・地域協力募金で建設されました)なお、横浜YMCAでは、パテインYMCAを通じた支援のための緊急支援募金を開始致しますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ミャンマー洪水緊急支援募金

期間 8月27日(木)~10月31日(土)

●BAPY基金 はまっこチャリティーコンサートのご案内

横浜中央YMCAでは、今年度のBAPY基金強化月間を受け、チャリティーコンサートを実施します。主に大人を対象としたコンサートになりますが、お時間のある方は、是非ご参加ください。

日時 9月25日(金) 19:00~21:00

場所 横浜中央YMCA 9Fチャペル

内容 勉強会とコンサート

対象 一般

参加費用 ¥2,000(税込/1名)

出演 Kahoo*・エソラビト(戸塚密着型、ピアノ弾き語りシンガーソングライター)

BAPYは“Be A Partner of the Youth”の頭文字をとったもので、「子どもたち(青少年)のパートナーになろう」という意味です。

9月例会プログラム

日時：9月10日(木) 18:30~20:30

場所：横浜YMCA 501号室

司会：天野ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 金子 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 金子会長
4. ゲスト・ビジター紹介 金子会長
5. 食前感謝 金子会長
6. 卓話 「私の国ベトナムの魅力」
日本語学科ベトナム留学生 通称 ソアイさん
7. ビジネス・報告 会長、他
8. *Happy Birthday* : 天野皓司(27)
9. 閉会点鐘 金子会長

例会報告：伊藤ワイズ

10月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
17	土	10:00	第18回チャリティーラン	臨港パーク
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは横浜YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 046-641-5785